

機能変更のお知らせ dp2 Quattro (ファームウェアバージョン 1.06)

本製品は、ファームウェアのアップデート（ファームウェアバージョン 1.06）により、以下の機能が追加・変更となります。

ご注意!!

- ファームウェアのアップデートにより、セットアップメニューに新しい項目が追加されます。使用説明書のメニューリスト（P.29）と並び順等が変更になりますのでご注意ください。

シャッターボタン半押し時の AF 動作の有無を設定できるようになりました。(1.06)

シャッターボタンを半押ししたときに、オートフォーカスを作動させるか、させないかを設定することができます。

「**撮影設定**」(P.27) → 「**半押し AF-ON**」より設定します。

切	シャッターボタンを半押ししても、オートフォーカスが作動しません。
入(初期設定)	シャッターボタンを半押しすると、オートフォーカスが作動します。

「半押し AF-ON」の設定を「切」にして、AEL ボタンの設定を「AF-ON」にすると、オートフォーカスの作動をシャッターボタンから切り離す使い方ができます。AEL ボタンの設定は P.73 の「**AE ロックボタンの割り当て**」を参照してください。

ディスプレイモードを増やしました。(1.06)

表示させたい情報をカスタマイズできるディスプレイモードを 2 つから 4 つに増やしました。(P.36,116 参照)

ご注意!!

- 今回のファームアップでメニュー項目名が「**ディスプレイモード設定**」から「**モード設定**」に、オプション名が「**ディスプレイモード**」から「**カスタム**」に変更になりました。

カスタムホワイトバランスの取得方法が変わりました。(1.06)

カスタムホワイトバランスの取得方法 (P.65) が、シャッターボタンから AEL ボタンに変更になりました。

ご注意!!

- カスタムホワイトバランス取得時に AF は作動しません。フォーカスリングを回してピントを合わせてください（ピントはおおよそで構いません）。

Eye-Fi 連動機能に対応しました。(1.06)



Wi-Fi（無線 LAN）通信機能をもった Eye-Fi カード（市販品）を使用すると、画像をワイヤレスでスマートフォンやパソコンに転送することができます。

- 画像の転送機能は Eye-Fi カードが備えています。カードの使用方法やセットアップ方法などは、カードの使用説明書を参照してください。
- ご使用になる Eye-Fi カードによっては、RAW 形式の画像を転送することができます。詳しくは Eye-Fi カードの使用説明書を参照してください。

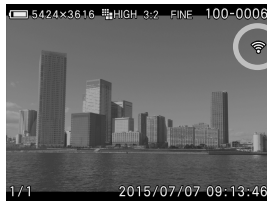
Eye-Fi カードをカメラに入れると、「**カメラ設定**」(P.27) → 「**Eye-Fi 設定**」 → 「**Eye-Fi 転送**」の項目がセットできるようになります。

Eye-Fi 転送

切	通信・転送機能を停止し、通常のメモリーカードと同じように動作します。
入(初期設定)	カード側の設定により、画像を自動転送します。

- 画面に表示される Wi-Fi マークの状態、通信状況を確認できます。

— (未点灯)	「 Eye-Fi 転送 」が「切」になっている
Wi-Fi (グレー点灯)	未接続
Wi-Fi (白点滅)	接続トライ中
Wi-Fi (白点灯)	転送待機中
Wi-Fi (アニメーション)	画像転送中
Wi-Fi (エラー)	Eye-Fi カード情報取得エラー (カメラの電源を入れ直してください。繰り返し表示される場合は、カードの異常が考えられます。)



- 転送が完了した画像には Wi-Fi マークが表示されます。

- Eye-Fi カード固有の情報や、通信情報を確認することができます。

確認できる情報： 接続先 SSID
カードの MAC アドレス
カードのファームウェアバージョン

「**カメラ設定**」(P.27) → 「**Eye-Fi 設定**」 → 「**通信情報**」より確認してください。

ご注意!!

- 画像の転送中に、カメラの電源を OFF にすると転送が中断されます。再度電源を ON にすると転送が再開されます。
- Eye-Fi カードは、使用する国や地域で使用が認められているか確認してください。またその国や地域の法律に従ってお使いください。
- Eye-Fi 転送を「切」に設定していても、カードから電波が発信されることがあります。病院や航空機内など、電波の発信を禁止している所では、カメラからカードを取り出してください。
- 通信状況によって、画像の転送が遅くなったり、中断する場合があります。
- 画像の転送中に撮影をすると、通信・転送が中断される場合があります。撮影した画像のカードへの書き込みが完了すると、通信・転送が再開されます。
- 画像の転送ができない場合は、カードの使用説明書を参照し、カードやパソコンの設定を確認してください。
- Eye-Fi カードの通信・転送機能はカメラの電源で作動するので、電池の消耗が早くなります。
- 音声メモ (P.108) の付けられた画像は、画像データのみ転送され、音声データは転送されません。

インターバルタイマー撮影の最短間隔が短くなりました。(1.05 以降)

撮影間隔は 4 秒～60 分の間で設定できます。

設定方法は、使用説明書の「**インターバルタイマー撮影**」(P.58) をご覧ください。

- 画質と画像サイズの組み合わせにより、設定できる最短の撮影間隔が変わります。

		画像サイズ			
		S-HI	HIGH	LOW	S-LO
画質	RAW+J	/	8 秒	4 秒	/
	RAW	/	8 秒	4 秒	/
	FINE	7 秒	7 秒	4 秒	4 秒
	NORM.	6 秒	6 秒	4 秒	4 秒
	BASIC	6 秒	6 秒	4 秒	4 秒

- 撮影間隔を短めに設定した場合、撮影画面に戻らないうちに次の撮影が始まる場合があります。

画像のアスペクト比(横縦比)に「7:6」が追加されました。(1.05 以降)

6×7 版カメラとほぼ同じ横縦比での撮影が可能です。

設定方法は、使用説明書の「**アスペクト比の設定**」(P.70) をご覧ください。

画像サイズに「S-L0」が追加されました。(1.05 以降)

設定方法は、使用説明書の「**画像サイズの設定**」(P.70) をご覧ください。

- 「**S-L0**」は、画質の設定が JPEG (FINE、NORMAL、BASIC) の時のみ設定できます。

- 「**S-L0**」時の各画質・アスペクト比の組み合わせによる記録画素数とおおよそのファイルサイズは以下のようになります。

アスペクト比	記録画素数	画質		
		FINE	NORM.	BASIC
21:9	1.6M (1920×816)	1.1 MB	0.6 MB	0.5 MB
16:9	2.0M (1920×1080)	1.5 MB	0.8 MB	0.6 MB
3:2	2.5M (1920×1280)	1.8 MB	0.9 MB	0.7 MB
4:3	2.2M (1696×1280)	1.6 MB	0.8 MB	0.6 MB
7:6	2.0M (1584×1280)	1.5 MB	0.8 MB	0.6 MB
1:1	1.7M (1280×1280)	1.2 MB	0.6 MB	0.5 MB

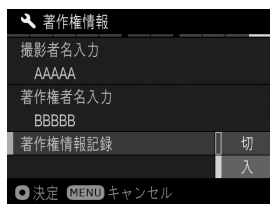
著作権情報記録機能が追加されました。(1.05 以降)

撮影時に「撮影者」と「著作権者」の情報を画像の Exif 情報に記録することができます。

- 「撮影者」「著作権者」それぞれ半角英数字・記号で 48 文字まで入力できます。

1
「カメラ設定」(P.27) → 「著作権情報」を選びます。

2
著作権情報画面で「撮影者名入力」または「著作権者名入力」を選び、後述の「文字の入力方法」の手順に従い、文字を入力します。



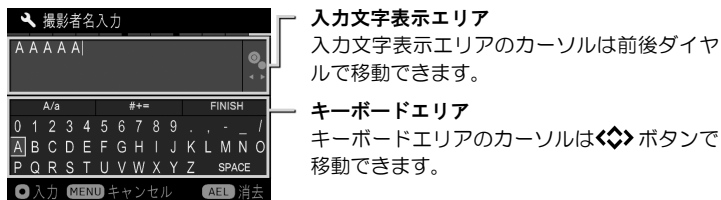
3
文字の入力が完了したら、著作権情報画面の「著作権情報記録」から「入」を選びます。(その後の撮影から画像に著作権情報が記録されます。)

ご注意 !!

- カメラを貸したり譲渡する時などは、「著作権情報記録」を「切」にしてください。また「撮影者名入力」と「著作権者名入力」は空欄にしてください。
- 著作権情報記録によるトラブルや損害が生じた場合、当社では一切責任を負いません。

文字の入力方法

撮影者名入力および著作権者名入力画面



入力文字表示エリア
入力文字表示エリアのカーソルは前後ダイヤルで移動できます。

キーボードエリア
キーボードエリアのカーソルは<>ボタンで移動できます。

1
キーボードエリアで入力したい文字を選び、OK ボタンを押して入力します。

A/a	キーボードをアルファベットに切り替えます。アルファベットの表示中は、押すごとに大文字/小文字を切り替えます。
#+=	キーボードを記号に切り替えます。
SPACE	1 文字分のスペースを挿入します。

2
一通り文字を入力したら、FINISH を選び、OK ボタンを押して確定します(前の画面に戻ります)。

- MENU ボタンを押すと、入力した文字はキャンセルされ、前の画面に戻ります。

入力した文字を消したい場合

前後ダイヤルで名前エリアのカーソルを消したい文字の後ろ側に移動し、AEL ボタンを押します。

記録された著作権情報を確認するには…

- 画像情報 (P.94) の表示中に、<> ボタンを押すと著作権情報表示に切り替わり、著作権情報 (撮影者 (PHOTOGRAPHER) ・ 著作権者 (COPYRIGHT)) が確認できます。
- 記録された情報は、SIGMA Photo Pro の「撮影情報ウインドウ」や Exif 対応ソフトでも確認することができます。

フレーム半透過機能が追加されました。(1.05 以降)

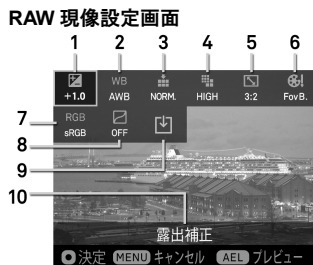
3:2 以外のアスペクト比での撮影では、通常、フレームが黒く表示されますが、半透明表示にすることで、周囲の状況も確認できるスポーツファインダー的な使い方が可能になります。

「カメラ設定」(P.27) → 「フレームの表示」より設定してください。

黒 (初期設定)	フレームが黒く表示されます。
半透明	フレームが半透明表示になります。

カメラで RAW データを現像する (1.03 以降)

パソコンを使わずに、RAW 形式で記録された画像から、JPEG 形式の画像を作成することができます。



1	露出補正 (P.75)
2	ホワイトバランス (P.61)
3	画質 (P.69)
4	画像サイズ (P.70)
5	アスペクト比 (P.70)
6	カラーモード (P.78)
7	カラースペース (P.82)
8	トーンコントロール (P.81)
9	現像実行アイコン
10	選択されている項目

1
RAW 画像の表示中に MENU ボタンを押して「再生設定」(P.27)を開き「RAW 現像」を選びます。

2
サブメニューで、以下のいずれかの方法で RAW 現像したい画像を選びます。

ファイル選択	<> ボタン (9 画像表示時は<>> ボタン) で現像したい画像を表示させ、OK ボタンを押して確定します。 ● 「ファイル選択」は、手順 1 で画像を表示していなくても実行できます。
現在のファイル	手順 1 で表示した画像が選ばれます。 ● 手順 1 で JPEG 画像を表示した時は「現在のファイル」を選ばません。

- 画像の選択後、RAW 現像設定画面が表示されるまで、「処理中…」とメッセージが表示されます。

3
RAW 現像設定画面で、<>> ボタンで変更したい項目を選び、OK ボタンを押して確定します。

- ホワイトバランス (P.61) とカラーモード (P.78) は、各オプションに対して詳細な設定が可能です。I/O ボタンを押して詳細設定画面を表示させてください。詳しくは各項目のページを参照してください。

4
画像を確認しながら、前後ダイヤル、もしくは <> ボタンを押して調整値 (もしくはオプション) を変更し、OK ボタンを押して確定します。

5
変更したい項目が複数ある場合は、手順 3~4 を繰り返します。

6
一通り設定が完了したら、<>> (現像実行アイコン) を選び OK ボタンを押します。

7
<> ボタンで「はい」を選び、OK ボタンを押して確定します。中止したい場合は、<> ボタンで「いいえ」を選び OK ボタンを押します。

- 再生時、RAW データから作成された JPEG 画像には <>> マークが表示されます。
- 作成された JPEG 画像のファイル番号は、カードに入っている最後のファイルの次の番号が割り当てられます。

ご注意 !!

- カードに十分な容量が無い場合、警告メッセージが表示され、RAW 現像を実行できません。
- より細かな調整が必要な場合は SIGMA Photo Pro での現像をおすすめします。

M モード時の LCD モニタ表示について (1.02 以降)

露出モードが M のときは、写真の仕上がりをイメージしやすくするために、実際の露出が画面に反映され、露出アンダーのときは暗く、露出オーバーの時は明るくなります。

例えば、他社製のフラッシュを使用して M モードで撮影する場合、画面が暗い状態ではピントや構図の確認が困難になります。そのような場合は、実際の露出を反映せず、画面の明るさを調整するモードに切り替えることができます。

「撮影設定」(P.27) → 「M モード時モニタ露出反映」より設定します。

切	見やすい明るさに自動調整されます。
入 (初期設定)	実際の露出が反映されます。

メモ

- エレクトロニックフラッシュ EF-140S SA-STTL を使用する場合は、「入」に設定していても、見やすい明るさに自動調整されます。